

# 令和6年度 千早赤阪村立学校 評価報告書

学校名（千早赤阪村立中学校）

校長名（近藤 和浩）

## 1. 教育目標

『たしかな学力をつける ゆたかな心を養う すこやかな体を育てる』

めざす学校像

豊かな自然と少人数指導でのびのびと過ごせる学校

めざす生徒像

思いやりの心を持ち、探求心と表現する意欲のある生徒

めざす教師像

生徒とふれあい、前向きで健全に生徒を導く教師

## 2. 経営方針

### 本年度重点目標

#### 「わかりやすい授業で学力向上に取り組む」

授業の「めあて」「ふりかえり」を意識して、1時間での学びに気づく授業。

思考・表現を大切に授業。生徒の挙手発言を促し、主体的に学ぼうとする姿勢を育む授業。

そんな授業を目指すとともに、テストの点数にもこだわり学力向上を目指す。

#### 「支援教育の充実をすすめる」

支援学級在籍生徒の抜き出し授業を進めていくにあたり、学校全体で支援学級在籍生徒がより良く、学習内容の理解が進むように取り組んでいく。

#### 「道徳教育の発表に向けて研究を深める」

令和7年度に大阪府中学校道徳教育研究会の近畿大会発表に向けて、学校全体で道徳教育の充実に向けて取り組む。今年度は道徳の研究授業を実施して校内で議論をし、学校全体での道徳の授業力を養う。

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 社会を生き抜く、確かな学力づくり
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KGG プリントの活用をより一層進めることで、家庭学習の定着を図る。また、大阪府チャレンジテストの問題を研究し、今求められている力を分析し、日々の授業に取り入れることで、言語力の育成を図る。【研修部】</li> <li>・L(聞く)、S(話す)、R(読む)、W(書く)のそれぞれの技能を育むため、生徒が能動的に取り組める活動を積極的に取り入れ、ALTとの連携を通して、ALTの出身国の文化などに触れられるような機会を設ける。【英語科】</li> <li>・ICTを使用することによる効果が最大となるよう、各教科で積極的に活用していく。また、ICT機器の取り扱いや情報モラルに関して教職員で共通認識を持ち、教育活動全体を通じて発信を行っていく。【ICT】</li> <li>・一人ひとりの特性に応じた課題への対処や支援の充実を図るために、情報交換を密にし、一人ひとりに合った支援を、全体で考えていく。そのために、専門性の向上を目指し、家庭や地域、各関係機関との連携を深める、また、研修等の実施も考え、より一層の向上を目指す。【支援教育推進委員会】</li> </ul>
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KGGプリントを毎学期ごとに入れ替え、学習進度に合わせた内容のものを用意する。1学期中に各教科で大阪府チャレンジテストの問題の分析を行い、全体で思判表の能力育成に必要な授業法を検討する。【研修部】</li> <li>・身近な話題を取り入れたコミュニケーション活動を多く行う。クラスルームイングリッシュを取り入れて、英語の活用場面を増やす。JETも英語の使用を増やす。ALTの文化について、英語で説明、聞き取り。ALTから見た日本と海外の違いを題材にした授業作り。【英語科】</li> <li>・生徒のICT端末はバッテリーの劣化や不具合などが大きな問題となっており、紙ベースの授業に戻している教科もある。そのように、現実的に積極的な活用ができなくなっている状況の中で、最も効果的にICT端末を用いることができるよう、各教科でメリットとデメリットをよく検討し、活用することができた。【ICT】</li> <li>・支援教育推進委員会の月一回開催で、一人ひとりの現状や課題の共有や今後の方針の決定ができた。【支援教育推進委員会】</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KGGプリントの入れ替えは、行えた。しかし、家庭学習の定着度などが見えてこないままの1年であったため、年度末に向けて、生徒対象の家庭学習のアンケートを実施した。1学期にチャレテの分析を行え、それぞれの教科での課題や授業法を検討できた。また、年度終わりに今年度のチャレテの結果を見ての総括と申し送りを実施できた。【研修部】</li> <li>・身近な話題を取り入れたコミュニケーションでは、積極的な発言、生徒間の活発なコミュニケーションが見られた。クラスルームイングリッシュは使う頻度が増え、オールイングリッシュを意識した授業でも、ジェスチャーなどを用いて生徒の理解を促した。ALTの教材には興味を持って取り組む様子であった。【英語科】</li> <li>・授業でのICTの活用方法などは基本的に各教科に任せている形だが、ICT担当としてトラブルへの対応やアドバイスなどは適宜行うことができた。また教師用の新端末の導入に合わせ、教師間で情報セキュリティや情報モラルの再確認などを行い、共通認識をもつことができた。【ICT】</li> <li>・一人ひとりの課題に沿った学習などを、本人や保護者の意向も確認しつつ、実施することができた。支援を要する生徒の配慮事項を学校全体で共有することができた。研修等は、校外での全体研修として、参加をすることができた。【支援教育推進委員会】</li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習のアンケートの結果を次年度に申し送ることで、来年度の検討すべき課題を提示する。チャレテの総括を来年度に申し送ることで、来年度の授業改善につなげていく。【研修部】</li> <li>・コミュニケーションテストを増やす。JETもオールイングリッシュの授業をさらに増やし、英語に触れる機会をより一層増やしたい。【英語科】</li> <li>・教師間での情報モラルや情報セキュリティの再認識は行えたが、次年度は生徒に向けて情報の扱い方や処理の方法、機器の扱い方など、社会を生き抜く力として身につけることができるよう発信していく。【ICT】</li> <li>・支援についての全体研修への参加はできたが、校内での研修実施が今年度もできなかったため、次年度以降は、校外だけでなく、校内の研修も実施していく【支援教育推進委員会】</li> </ul>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ 豊かな心、たくましい人づくり
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちがともに学び、自身の道徳観を見つめる授業となるよう、道徳の学習法を見直す。【道徳・人権推進委員会】</li> <li>・昨年までで、本校の人権学習プランが定着した。そのうえで、それぞれの人権学習がより一層生徒にとっての学びが深まるよう。外部講師を活用しながら、改善を進める。【道徳・人権推進委員会】</li> <li>・運動に親しみを持ち、楽しみながら体力・運動能力向上に取り組む。【体育科】</li> <li>・自己を見つめ、継続的に進路学習を行い、計画的に卒業後の自らの進路や将来に向けて考えを深めさせ、自己実現につなげる。【キャリア教育担当】</li> <li>・教科担当・栄養教諭・地域の方と連携し、味噌づくり・作った味噌を使っての調理実習をはじめとする食育に力を入れる。【食育担当】</li> <li>・生徒が、自分たちの住む村の歴史や偉人に関心を持ち、郷土に誇りをもつことのできる講師の講演内容を考える。【郷土学習担当】</li> </ul>
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を見つめるだけでなく、多様な意見に触れることで、さらなる自己の道徳観の形成を促す授業法を提案し、学校全体で取り組んでいく。【道徳・人権推進委員会】</li> <li>・多文化共生、障がい理解学習などで外部講師を招き、授業を行う。【道徳・人権推進委員会】</li> <li>・運動技能向上のためデンマーク体操を年間（夏季を除く）継続して実施する。運動やスポーツを楽しみと思える機会を創出する。スポーツテストの実施（5月）。【体育科】</li> <li>・教科担当・養護教諭・栄養教諭・地域の方と連携し、味噌づくり・作った味噌を使っての調理実習を行った。美術科の授業としての茶道体験では、養護教諭・栄養教諭も関わり授業を充実させた。【食育担当】</li> <li>・村教委と連携し、生徒の発達段階に適した郷土学習授業を実施する。【郷土学習担当】</li> <li>・キャリアパスポートを活用して定期的に成長を振り返る機会を持った。また進路学習、学年の行事、その他学校の教育活動全体でキャリア教育的視点を意識した。【キャリア教育担当】</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期中に道徳の授業提案ができた。具体的には、1時間の中心発問となる項目でコの字型の座席配置にすることで、学級全体での意見交流をしやすくし、他者の意見に触れ、自己を見つめる道徳を実践した。昨年までと違って、生徒たちが道徳的価値について、議論することが増えた。【道徳・人権推進委員会】</li> <li>・外部講師を招いたことで、当事者や専門家の視点での授業ができ、生徒たちの理解が今まで以上に進んだ。</li> <li>・デンマーク体操を年間（夏季を除く）通じて行うことでの体力向上の成果は見られた。体育館開放の実施で昼休み運動やスポーツをする生徒が増えた。スポーツテストの結果を考察すると前年度より良い結果となっていた。【体育科】</li> <li>・食育について、教科担当・養護教諭・栄養教諭・地域の方と連携し、様々な立場の関りから食育を行うことができた。【食育担当】</li> <li>・今年度は、新たに博物館学芸員による、生徒の実態や関心意欲に沿った郷土学の授業が実施できた。【郷土学習担当】</li> <li>・学校全体として年5回のキャリアパスポートは定着しており、内容も状況を見て微修正できている。小中の情報交換の内容なども、職員間で情報共有することができた。【キャリア教育担当】</li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コの字型を含め、さまざまな授業法で、学級全体での道徳的価値の深化を進め、自分自身を見つめながら、道徳的価値を高めていく授業を学校全体で取り組む。【道徳・人権推進委員会】</li> <li>・今年度実施できた、多文化共生、障がい理解学習だけでなく、そのほかの人権教育のなかでも、当事者や専門家を招いて、より深い学習になるよう計画をしていく。【道徳・人権推進委員会】</li> <li>・来年度も引き続きこの計画を実施する。スポーツテストは引き続き実施したい。運動やスポーツに親しめるように授業内容を検討する。【体育科】</li> <li>・来年度も味噌づくり・作った味噌を使っての調理実習をはじめとする食育に力を入れる。【食育担当】</li> <li>・次年度以降、教育委員会主催による郷土学授業はなくなるので、校内で計画的に実施する。【郷土学習担当】</li> <li>・今後も小学校や教育委員会とも情報交換をしながら、キャリアパスポートをうまく活用して、キャリア教育を進めていく。【キャリア教育担当】</li> </ul>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 魅力ある教育環境づくり(3-1 安心安全な学校づくりの推進)
P	重点目標	<p>・「自信と意欲を持った集団、支え合える仲間づくり」 ～みんなが生き生きと元気な、活気ある学校に～【生徒指導部】</p> <p><b>基本方針</b> ○学ぶ喜びを見つける生徒          ・規則正しく、正義の通る集団 ・一人ひとりの良さが集団の中で発揮できる          ○思いやるやさしさを身に付けた生徒          ・お互いの個性を認め合い尊重しあえるような集団 ・他の人への気配りができる          ○弾むたくましさにあふれる生徒          ・あいさつができる ・行事等に全力で取り組むことができる</p> <p>・校内の破損箇所を把握し、優先順位をつけて早期の原状復帰を目指す。【(学校施設)教頭】          ・通学中事故に遭わない様、通学環境の整備とすると共に、生徒自身の安全意識を高める安全教育を行う。【(通学)教頭】          ・災害時において三助を担える生徒の育成を目指す為、防災アドバイザー等を効果的に活用する。【防災教育(教頭)】          ・栄養教諭と連携し、職員を対象とした食物アレルギーに関する研修を行う。          ・村食物アレルギー対応委員会で食物アレルギーに関する課題に取り組む。【養護教諭】</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>・教育相談(学期に1回)・環境整備・安全点検(学期に1回)・グリーンキャンペーン(12月実施)・登下校指導(学期に3回)・避難訓練(学期に1回)・薬物乱用・犯罪防止教室(7月実施)・生徒指導内容の校内研修・交通安全教室(4月実施)・校内生徒指導連絡会(週に1回)・支援教育推進委員会(月に1回)・千早赤阪村立小中学校生活指導連絡協議会(月に1回)・生徒会活動・委員会活動</p> <p>・隔月の安全点検の実施と村教委への修繕依頼【(学校施設)教頭】</p> <p>・交通安全教室開催とPTA等と連携した安全指導の実施【(通学)教頭】</p> <p>・避難訓練の際、防災や三助についてのDVD視聴と防災アドバイザーからその重要性の講評を受ける。【防災教育(教頭)】</p> <p>・食物アレルギーを持つ生徒の実態把握に努めた。職員を対象とする食物アレルギーに関する研修を実施した。村食物アレルギー対応委員会で、食物アレルギーに関する課題に取り組んだ【養護教諭】</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>・SC や SSW から生徒と対応するうえでアドバイスをいただき、それを活用することができた。</p> <p>・適応指導教室の存在が学校としては非常に助けられた。不登校生にとっての居場所が作れたことが一番大きい。</p> <p>・村小中生活指導連絡会での情報が、中学校でも兄弟関係から対応できることが多かった。</p> <p>・優先順位を明確にして村教委へ修繕を依頼すると共に、校務員に依頼したりや自力で修繕したりした。【(学校施設)教頭】</p> <p>・入学式後の新入生保護者への自転車通学への説明や PTA だよりに保護者の通学路の安全についてのアンケート結果を掲載すること等を通し、家庭での安全指導について依頼したり交通安全教室を開催し生徒への安全教育を行ったりした。【(通学)教頭】</p> <p>・大阪府府880万人訓練に合わせて、村教委・防災士による訓練や防災体制への講評や DVD 視聴を効果的に活用し、生徒の発達段階にあった指導ができた。【防災教育(教頭)】</p> <p>・食物アレルギーの程度や適切な取組みなど、学校の食物アレルギー対応の課題が明確になった。【養護教諭】</p>
A	次年度に向けて	<p>・SC や SSW との連携を密に測りながら、各関係諸機関や小学校の先生も含め情報交換を行い対応していく。また、SC や SSW や CSW や社会福祉士が生徒指導の定例会や情報交換の場に参席してもらえると、より幅を持った対応が行える。</p> <p>・くすのきルームとの連携は継続しながらも、くすのきルームと中学校の交流をより強めていく。具体には、中学校の教員がくすのきルームに顔を出すことから始め、窓口になればよいと考えている。</p> <p>・小中加配の先生(理科・音楽)が、生徒指導に積極的に携わっていただけると、小中との情報交換が回りやすいケースもあり、中学校では見えない部分や背景などが分かり、解決の糸口に繋がるようなこともある。</p> <p>・登下校指導や地域の巡回の回数を増やして定期的実施する。</p> <p>・制服の移行期間に対する対応。・頭髪指導の難しさ。</p> <p>・家庭へ、通学時の安全について意識の共有を図り、年度のなるべく早い時期に交通安全教室を開催し、通学環境の整備と生徒への安全教育を行う。【(通学)教頭】</p> <p>・防災アドバイザーからの指導講評を参考に、防災・三助について指導内容を高める。【防災教育(教頭)】</p> <p>・次年度も職員を対象とした食物アレルギーに関する研修を行う。【養護教諭】</p>

### 3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 魅力ある教育環境づくり(3-2 学校および教職員の資質向上)
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCA を意識し、年間の取組みを学校全体で進める。【校長】</li> <li>・学力向上に向けて、大阪府チャレンジテストの分性を全教職員で行う。道徳の授業法の研修を進める。【研修部】</li> <li>・働き方改革を意識して業務にあたれるように日頃から啓発を行う。【校長】</li> <li>・地域の方に学校教育に参加して頂きやすいように呼び掛け、学校教育地域支援本部を今後作成し、地域に開かれた学校になるための礎を作っていく。【校長】</li> <li>・不祥事やハラスメント防止に向けて、職員会議等で啓発を続ける。可能であれば、研修を実施していきたい。【校長】</li> </ul>
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCA を意識し、年間の取組みを進めてきた。【校長】</li> <li>・1 学期中に各教科で大阪府チャレンジテストの問題の分析を行い、全体で思判表の能力育成に必要な授業法を検討する。【研修部】</li> <li>・コの字型を含め、さまざまな授業法で、学級全体での道徳的価値の深化を進め、自分自身を見つめながら、道徳的価値を高めていく授業を学校全体で取り組む。【研修部】</li> <li>・長時間勤務をすることがないように、全体の状況把握をすすめた。【校長】</li> <li>・地域に開かれた学校にするため、授業支援に来ていただいた。【校長】</li> <li>・不祥事防止に関しては、毎月の会議の冒頭で事例も含めて周知・啓発を行った。【校長】</li> </ul>
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めの設定時に昨年度の A(アクション)を参考にできた。【校長】</li> <li>・1 学期にチャレテの分析を行え、それぞれの教科での課題や授業法を検討できた。また、年度終わりに今年度のチャレテの結果を見ての総括と申し送りを実施できた。【研修部】</li> <li>・1 学期中に道徳の授業提案ができた。具体的には、1 時間の中心発問となる項目でコの字型の座席配置にすることで、学級全体での意見交流をしやすくし、他者の意見に触れ、自己を見つめる道徳を実践した。昨年までと違って、生徒たちが道徳的価値について、議論することが増えた。【研修部】</li> <li>・働き方改革、地域に開かれた学校や不祥事防止など、教職員の働き方についての意識改革を進められることができた。【校長】</li> </ul>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定着を目指して継続していく【校長】</li> <li>・チャレテの結果分析を申し送ることで、今年度の成果と反省を次年度に引き継ぐことで、各教科の授業力の向上につとめる。【研修部】</li> <li>・来年度も自己を見つめるだけでなく、多様な意見に触れることで、さらなる自己の道徳観の形成を促す授業法を提案し、学校全体で取り組んでいく。【研修部】</li> <li>・教職員の意識改革や地域に開かれた学校へ来年度のさらに推し進めていく。【校長】</li> </ul>

## 4. 教育自己評価

### 【教職員による評価等】

教職員による評価で高かったのは「生徒指導において家庭と緊密な連携ができています」と「生命の大切さを学んだり、社会のルールを身に着けるため、年間計画に基づき道徳の時間を中心に継続的に取り組んでいる。」の2つである。些細な事でも日頃から生徒の家庭に連絡し、連携を取りながら指導を進めていることについて、教職員も気かけながら取り組んでいることがわかる。また、生命や社会のルール等計画的に道徳教育に取り組んでいるという項目は、最も高い値を示しており、教職員の中に道徳に積極的に取り組んでいるという意識があることがわかる。来年度に向けて、さらに学校全体で取り組んでいきたい。

次に自己評価で低かった項目は「部活動の活性化に努力している」「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」「保護者や地域の人々と接する機会を多く持ち、開かれた学校となっている」の3つの項目である。経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制があまりとれていないと多くの教師が感じている。他校に比べて、初任者や経験年数の少ない教職員があまりいないこともあるが、そういった教職員が学ぶ機会が多かったり、教えあう機会が持てるような環境になればよいが、教科によっては複数人いない場合もあるため、本校の規模ではなかなか難しい。保護者や地域に開かれた学校になっていないということは、コロナ禍以降活動が縮小された PTA や学校行事等で、地域まで広げて呼ぶ体制になっていないことも関係があるかもしれない。そのような中、家庭科の裁縫等で今年度地域より学習ボランティアに来ていただいた。少しでも学習活動に携わっていただけた。今後も開かれた学校を目指していく。

### 【保護者による評価】（学校教育アンケート結果より）

保護者より高評価の項目は「子どもは学校行事を楽しみにしている」「学校は雰囲気良く子どもたちは生き生きと学校生活を過ごしている」「学校では子どもに関するプライバシー（個人情報）が守られている」「学校は、命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」の4項目です。昨年度も評価が高かった項目。今後も継続していく。

次に評価の低かった項目は「子どもは授業がわかりやすいといっている」「学校は自分の生き方を考え、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」「学校は発達段階に応じて、子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている」「先生たちは子どもの人権を尊重する姿勢で指導にあたっている」「学校の施設設備は学習環境面において整っている」の5項目です。わかる授業に向けて学校全体で取り組んできたが、生徒を通じて保護者にまでは届いていないことがわかる。豊かな心や人権にも取り組んでいるがなかなか保護者にまでは届かない。施設設備の改修は教委にも要望をして進めていく。

### 【生徒による評価】（学校教育アンケート結果より）

高評価は「学校行事は楽しい」「いのちの大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の3項目。生徒には命や心、人権について学んでいることは伝わっていてうれしい。

次に低い評価は「生徒会活動に関心をもって積極的に参加している」「授業中積極的に挙手したり発言したりしている」「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」「破損箇所はすぐに修理され、快適に生活できる環境になっている」の4項目。昨年同様の項目。

そんな中、昨年度に比べて改善が見られた項目（+5以上）が興味深い。「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業が多い」（昨72%→今82%）「授業で、教え方に工夫をしている先生が多い」（昨80%→今89%）「部活動は楽しく、積極的に参加している」（昨76%→今84%）「生徒会活動（委員会活動）に関心をもって、積極的に参加している」（昨59%→今66%）+7

本校の今年度の学校重点目標の一つ「わかりやすい授業で学力向上に取り組む」を意識して授業を進めてきた結果がしっかりと表れていると感じた。今後も教職員の授業力向上を意識しながら取り組み、生徒の学力向上に効果が出るようにしっかりと取り組んでいきたい。

## 5. 学校関係者評価

学校評議員会議よりいただいた主な意見

### 【1学期】

#### ①令和6年度千早赤阪村立学校評価報告書について

色々な特性を持った子ども達がいるので、お互いに助け合い認め合うインクルーシブな学校であって欲しいと思う。

ICTを使用する授業内容も向き不向きがあると思う。機器ばかりに頼らず、心に残る授業内容であって欲しいと思う。

#### ②部活動の地域移行について

部活動は子ども達にとって重要な活動だと思う。休日の勤務等ありがたく思うとともに、働き方改革を進めないといけないジレンマがあると思う。

完全な地域移行は難しく思う。地域には多才な方が多いので活動に参加してもらえるのではと思う。

#### ③学校行事について

近年、今まで経験した事のない自然災害が起こっている。中学校もグラウンドの石垣が崩れる被害があったが、応急処置をして体育大会を開催した。当時の中3にとって、最後の体育大会ができて良かった。

みそ作りの体験学習、文化発表会、多岐にわたり行事をして頂いていると思う。

### 【2学期】

#### ①学校行事の実施時期や曜日について

体育大会の実施時期について、例年通りの日程でよいと思う。公立高校の受験日が早くなるかもしれない、今までよりカリキュラムを前倒しすることも考えられる。今後のことを考えて、今まで通りで良いと思う。土曜参観は確かに参観する保護者は減っている。参観に関しては平日で良いと思う。

体育大会の実施時期は、最近の暑さは大変懸念される。ただ、村の様々な行事との調整も難しく充分な熱中症対策を確保して取り組むのが良いと思う。参観については、保護者の関心も高いように感じるが、休日開催することでデメリットもあり、今後検討する必要性を感じる。

#### ②学校の情報発信について

ホームページは定期的に更新され、学校内の様子がわかり楽しみにしている。学校だよりをカレンダーに貼って確認しているので、紙ベースでいただくとうれしいです。メール配信は急な予定の変更など発信していただき役立っていると思う。

保護者の方に連絡するという内容については、必ず全家庭に届く手段（紙媒体など）が必要と思う。

#### ③その他

今年初めて中学校に家庭科支援を地域の方と一緒に入らせて頂いた。今後は、地域の垣根を越えて、少しずつボランティアにご協力いただける方が増えるといいなと思う。

学級や学校という集団の中で、様々な立場やいろいろな思いや考えを持つ人たちと関わりながら、人間関係力などを培うことが子どもたちにとって大切だと思う。ただ、その集団の中で活動することに大きなしんどさや困り感を感じる子どもたちも存在する。先生方のご尽力で、別室で個別対応等を行っている現状もあるようだが、今後、村内において人や場所の確保など、そういう取り組みの何らかの位置づけが必要かと思う。

### 【3学期】

#### ①令和6年度千早赤阪村立学校評価報告書について

くすのきルームに参加している生徒はどのくらいいますか。

部活動の状況は、どんな様子ですか。部活動の良さを感じるの、何とか継続して欲しい。

KGG ノートの始まりは、昔の学力向上担当が高校の自主勉強ノートを参考に作った。プリントもよいが、自分の興味あることを自主的にノートにまとめるというようなことが大切なのは。

## 6. 第三者評価

実施していない。